

令和2年度 島田市立島田第二中学校



二中だより 6月号

☆校訓 文化の薫る学校の創造

☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

令和2年5月29日 発行

5月25日安倍首相記者会見内容。「(前略)…コンサートや演劇など、文化芸術イベントは、私たちの心を豊かにし、癒やしをもたらしてくれます。トップアスリート達が活躍する姿は、私たちに夢や感動を与えます。感染状況に目を凝らしながら、来月、再来月と、そうした日常を少しずつ段階的に取り戻していきます。スポーツなども6月から、まずは無観客から再開していただき、段階的に観客を増やしていきます。コンサートや各種イベントについても、100人程度のものから始め、感染状況を見ながら、1,000人規模、更には収容率50%へと順次拡大していく考えです。あらゆる活動について感染防止対策を講じることを大前提に本格的に再開していきます。感染リスクがあるから実施しないのではなく、これからは、感染リスクをコントロールしながら、どうすれば実施できるかという発想が重要であると考えます。…(後略)」

また、5月15日付文科省「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における『学びの保障』の方向性等について(通知)」には、「社会全体が長期間にわたり、この新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、学校教育は教師と生徒の対面指導、生徒同士の関わり合いを通じて行われるものであり、授業時間確保は当然としても、また、時間が限定される場合も、学校行事を含めた学校教育ならではの学びを進めていくことが大切である。今後は、地域ごとに、臨時休業の期間や学校再開の状況が異なる状況が発生するとともに、再度感染者が増加することも想定されるが、可能な限りの感染症対策を講じながら子供たちの学びの保障に努めることが重要である。(要約)」とあります。

今、新型コロナウイルスへの対応に社会も学校も大きな変化が生じ始めています。

さて、新型コロナウイルスの影響を受け、世界も変革期を迎えようとしています。各国の大都市は、大きなリスクを抱えることも我々は体験しました。この苦い経験とテクノロジーの進化は、今後、多くの仕事がリモートでできる社会に変貌していく可能性があるでしょう。また、将来、一層デジタル化が進むことで、ビッグデータに基づく情報(管理)社会に大きく変わっていくかも知れません。更に、私たち人類は、多くの人々を襲った新型コロナウイルスに対して、国家間の主義や主張の違いを超えて協力しなければならないことも経験しました。しかしながら、現在の大国同士における保護主義的な傾向は、国家間に緊張をもたらし、ある専門家は1930年代の世界恐慌時に似ているとも言っています。当時は、主要国が互いに貿易制限措置を取り、世界経済が収縮し、失業者が増大し、第二次世界大戦につながったと言われています。その猛省を受け、「歴史は、市場を開くことがすべての人々の助けになることを教えてくれた」と言って、自由貿易体制の構築のために設けられたのが世界貿易機関(WTO)です。皆さんの時代こそ、グローバルな視点による科学的、効率的に協力し合える国家間の仕組みを築いていかなければなりません。

今回の危機によって、学校現場は、ICT機器の導入が加速することになりました。それは、これから皆さんが生きていく未来社会の創造のための重要なツールになるでしょう。人生に一度、100年に一度経験するかしないかの経験をした皆さんだからこそ、世界と日本が今後歩むべき未来が描けるのだと信じています。